

相馬通信 (6月の新聞報道より)

(※1)

日本固有種 セグロセキレイ

身近な野鳥に関心を

南相馬で調査 報告書に



日本野鳥の会南相馬は日本固有種とされるセグロセキレイの南相馬市での生息調査を行い報告書を発表した。

セグロセキレイは体微の野鳥。長20〜22センチほど、頭から背にかけては黒、腹部は白、はまりと間、南相馬市全域で行ったコントラストが特だった。会員が日帰り調査も記録した。

範囲で確認した個体数を報告し、月別に集計した。また生息域とされる河川や湖沼周辺24カ所での年1回の観測も記録した。

同じセキレイ属で国内外に生息するハクセキレイを同時に調べた。ハクセキレイに比べ数は少ないものの、調査で川周辺の住宅地や田畑でも見られた。同会の遠藤政弘代表は「日本だけに観察できることを知り、関心を持ってほしい」と話している。

報告書には集計結果のグラフや写真、地図などが盛り込まれている。500部を作製し市内の小中学校や図書館などに配布する。問い合わせは同会、電話0800(184)2203へ。

南相馬市内で撮影されたセグロセキレイ

報告書を手にする遠藤代表

(※1) 福島民報 6月23日(金)

遠藤政弘氏 相高普第17回、昭和40(1965)年卒。八幡出身。

(※2) 福島民報 6月25日(日)

齋川一朗氏 相高普第19回、昭和42(1967)年卒。中村出身。

(※2)

入園1万2906人

相馬・和田観光組合 今季のイチゴ狩り



相馬市の和田観光組合の今季(昨年12月〜5月)の営業実績は、イチゴ狩りの入園者数は1万2906人となり、昨季を3588人上回った。23日、市内で開いた実績報告会でも示した。直売は65594万5520円で昨季を376万1800円下回った。

組合によると、新型コロナウイルス感染拡大の影響が小さくなり、入園者が増加した。一方、寒暖差が大きい天候の影響でイチゴの供給不足となり、直売が伸び悩んだ。

齋川一朗組合長はあいさつで「来園者の満足のための運営に努める」と来季への意気込みを語った。立谷秀清市長、市観光協会長の草野清貴相馬商工会議所会頭が祝辞を述べた。

来季の抱負を語る齋川組合長

(転載&※脚注 村山)